

# 奨励賞



横関正人

設計者

## 横関正人

大阪府建築士会、横関正人+横関万貴子 / NEO GEO

共同設計者

## 横関万貴子

大阪府建築士会、横関正人+横関万貴子 / NEO GEO



横関万貴子

戸建住宅(専用)

奈良県橿原市今井町

# 今井町の家

構造・階数

木造伝統構法+耐震補強フレーム  
地上2階

敷地面積

255.58㎡

建築面積

133.36㎡

延床面積

169.69㎡

竣工

平成25年3月31日



A

A 土間2から土間3を見る

D 食事室を見る

G 階段室の吹抜け

B 土間4から中庭1を見る

E 土間2から家族室を見る

写真撮影... 絹巻豊写真事務所 絹巻豊

C 外観夕景)

F 室2(2階)



B



C

## 選評

重要伝統的建造物保存地区に建つ町家のリノベーションである。中世の環濠集落として栄えた奈良県橿原市今井町の町並みが現在どのように保存され、町家が現代生活の中に溶け込んでいくのかが興味深く、現地に臨んだ。

築200年の町家の改修では、耐震補強が重要となる。設計者は床上の耐力壁と、床上下の箱型耐力フレームを一体化した門型架構を開発し、耐震性を保っている。この耐力壁は格子壁と呼ばれ、門柱の中に格子を組み込んでいる。しかし、民家と比べ少し繊細な町家の木構造やしつらえの中に、この格子が面として現れた途端、少し図太い壁となり、空間が荒い印象を受ける。格子壁の耐震補強法は今後いろいろな場で発展する可能性を

感じさせるものではあるが、かつての大工がそうであったように、格子や壁のもつ意味を構造と意匠、同時解釈できるようになると、さらに良くなるのではないかと思う。

次に、町家の平面を構成する上で「土間」は重要な位置づけをもつ。しかし、ここへ階段を設けたためにその意味が薄れたように思う。細長い町家平面は階段の位置如何で全体性が大きく変わることを考慮すべきである。小間が連続したタタミの間が広間に一変し、間と間の関係性が薄れていくのは残念であるが、町家のもつ魅力的な吹抜け空間を耐震壁により生かし、屋根架構を現すことにより心地よい空間が実現している。(竹原義二)



E

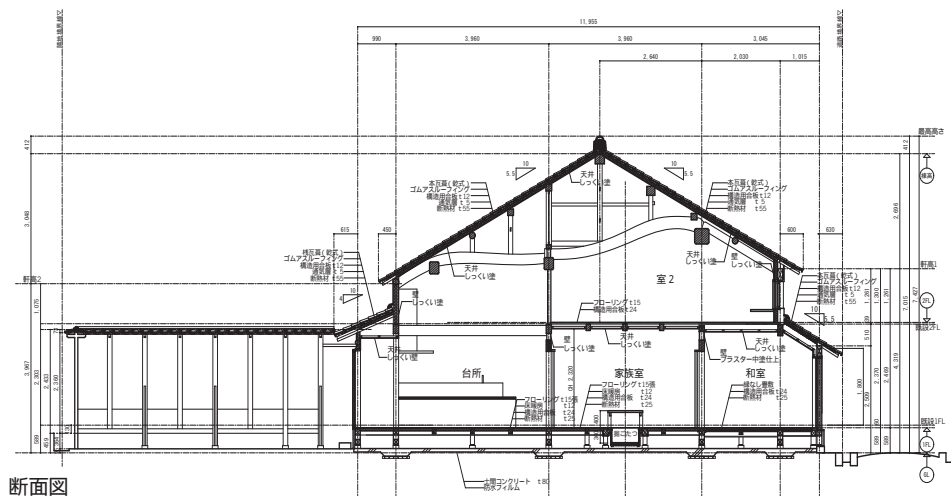


F

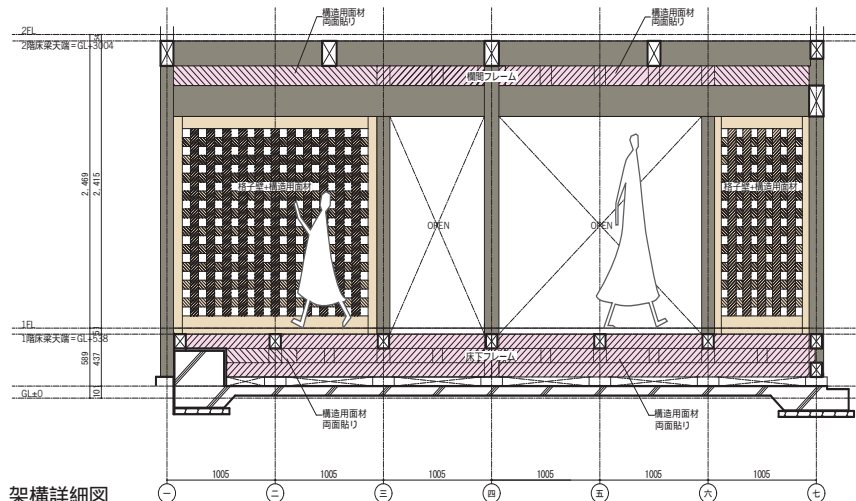


G

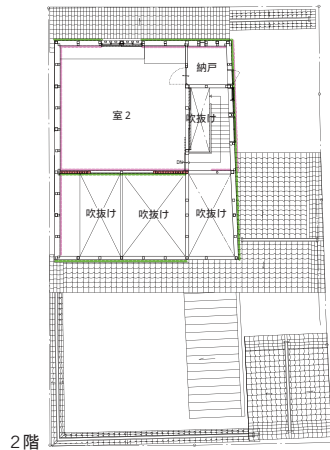
D



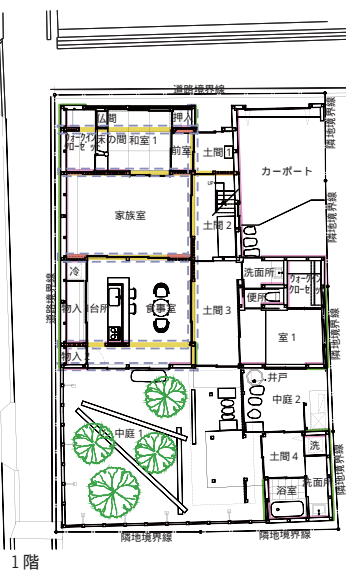
断面図



架構詳細図



2階



1階



平面図